

地域特性を踏まえた 新しい公共サービスの確立

千代田区の清掃事業は、可燃・不燃・粗大を直営で行っている。また、粗大においては23区で唯一直営を維持している。こうした事は、いくつかの特徴があると考えられる。

千代田区は、昼間人口約117万人・夜間人口約67,000人となっており、夜間人口に対する昼間人口比率は175.9%と全国の自治体で突出している区となっている。こうした状況から我々に求められていることの第一は職員が自分の力で考え、行動すること。すなわち「主体性」であり、他区とは違う区民・公共サービスを提供しなければならない。

併せてごみの滞留時間を短くすることによりカラス等によるごみの散乱被害防止や歩行者への配慮、まちの環境美化・環境衛生の向上をして、収集時間が守られることで大幅な減員・減車の合理化攻撃はされていない。

二つ目が、「あおぞら」の取り組みがスタートしている。

その一つ目が、「時間帯収集」。燃やすごみについては、8時30分・9時30分・12時30分までの三段階の排出時間を定めている。燃やさないごみは、10時までに、また、燃やさないごみ同様の蛍光灯・ガス管などの危険物は、12時30分までに排出をお願いし、軽小で別回収している。大規模集合住宅の建築に伴う時間帯変更や道路工事による通行止めでの早取り（再度確認が必要）などのデメリットはあるが、ごみ出し時間を表示すること、区民の利便性を図り、

いま No.52 清掃事業は・・・ 千代田区



▲環境祭り

区民・民間・

困っているものなどを回収しながら、区民からの感謝の手紙などを見るから公務・公共部門の役割が重要だと期待が高まっている。環境の新しい視点も踏まえ、「地域貢献」を柱に創造力・創造性を発揮しながらこれまでとは違った「新しい公共」が必要となってくる。

（千代田区担当中執 張替 一茂）



▲行政の協働でスタートした「ねずみ対策」など職員の努力による新たな取り組みがスタートしている。

岸まきこ参議院議員の 推薦決定！

第27回参議院議員選挙における比例代表候補者として

2025年に予定される第27回参議院議員選挙にむき、自治労は8月に開催した第97回定期大会において、現参議院議員の岸まきこを組織内候補として擁立することを決定しました。

それを受け、自治労東京都本部も9月に開催した中央委員会において、岸まきこ議員の推薦を確認しました。

この間、岸まきこ議員には、自治労組織内協力候補予定者「岸まきこ」さんの推薦を全会一致で確認しました。

我われの声をしっかりと国政に反映させるためには、「数」の力が必要です。圧倒的な得票数で当選させるため、今から周知の取り組みを進めていきたいと思います。

（萩原 崇氏）



▲自治労大会で決意を述べる岸議員

東京清掃労働組合青年部 第68回定期大会を開催

青年労働者の力を結集し、闘いを組織しよう！

私たちが東京清掃青年部は10月15日(日)、第68回定期大会を開催しました。来賓として多田中央執行委員長32名、本部委員15名、委員長、自治労都本部青年部から「支部の課題」に傍聴7名、総勢54名で一年間の総括と今後の運動について、部員らによる報告や、部長、部落解放同盟の課題を共有し、運動方針を満場一致で確認しました。

各区における新規採用が増え、各支部から積極的に活動に送り出していきたいです。

（山口 明日波）



▲真剣に耳を傾ける参加者



▲主催者あいさつをする山口青年部長

経過報告が確認された後、須永副部長の運動方針（案）の提案に対し、各地連の活動報告を交えながら、各支部から積極的に活動に送り出していきたいです。



▲退任した須永副部長と新任の阿部執行委員

〇と〇と〇

2021年にデジタル庁が発足してから、デジタル化の波が清掃事務所にも押し寄せてきている。行政への申請書や窓口業務などが来庁せずとも、インターネット上で申請・受付が出来るようなオンライン化が進んでいる。練馬区の清掃事務所でも所内にDXチームを作り、事務所内の申請書や所内環境のオンライン化について少しずつ動き始めています。

他都市の収集車も、藤枝市や名古屋などでは、民間企業の最先端技術を用いて収集ルートの自動設定・表示ができるシステムの導入を試験的に行なっている。もちろん、現場側とすると不安要素も沢山ある。そこで、大切になってくるのは、事前のデジタル化についての話し合いとデジタルに触れていることだ。私達が経験した通り、デジタル化はいきなり迫ってくる。その中で、何も知らないと拒否反応が出てきてしまう。直営堅持が成り立つことで職員が、デジタルの得意な職員はもちろん、不得意な職員も含めて共存を模索していく必要がある。

（練馬区担当中執 黒田 渉）